

第1圏域

【概要】

中学校区としては第一中学校区、喜志中学校区で構成され、小学校区としては喜志小学校区、喜志西小学校区、新堂小学校区、富田林小学校区で構成されます。

北西部の大規模開発と東部地域の旧集落、南東部の公営集合住宅、官庁街周辺の市街化地域と多層的な形態となっています。市役所、保健所、警察署、南河内府民センター、多文化共生・人権プラザなどの公的機関が集中する地域となっています。

地域包括支援センター(ほんわかセンター)は直営で市役所内に配置しており、総合相談窓口としての機能を持つとともに、3つの圏域を統括する基幹型の役割を担っています。また、地域包括支援センター(ほんわかセンター)のランチ機能を持った在宅介護支援センターを2か所設置しています。

第1圏域の令和6年(2024年)3月末日の高齢化率は 30.1%と、市全体の平均を下回っています。

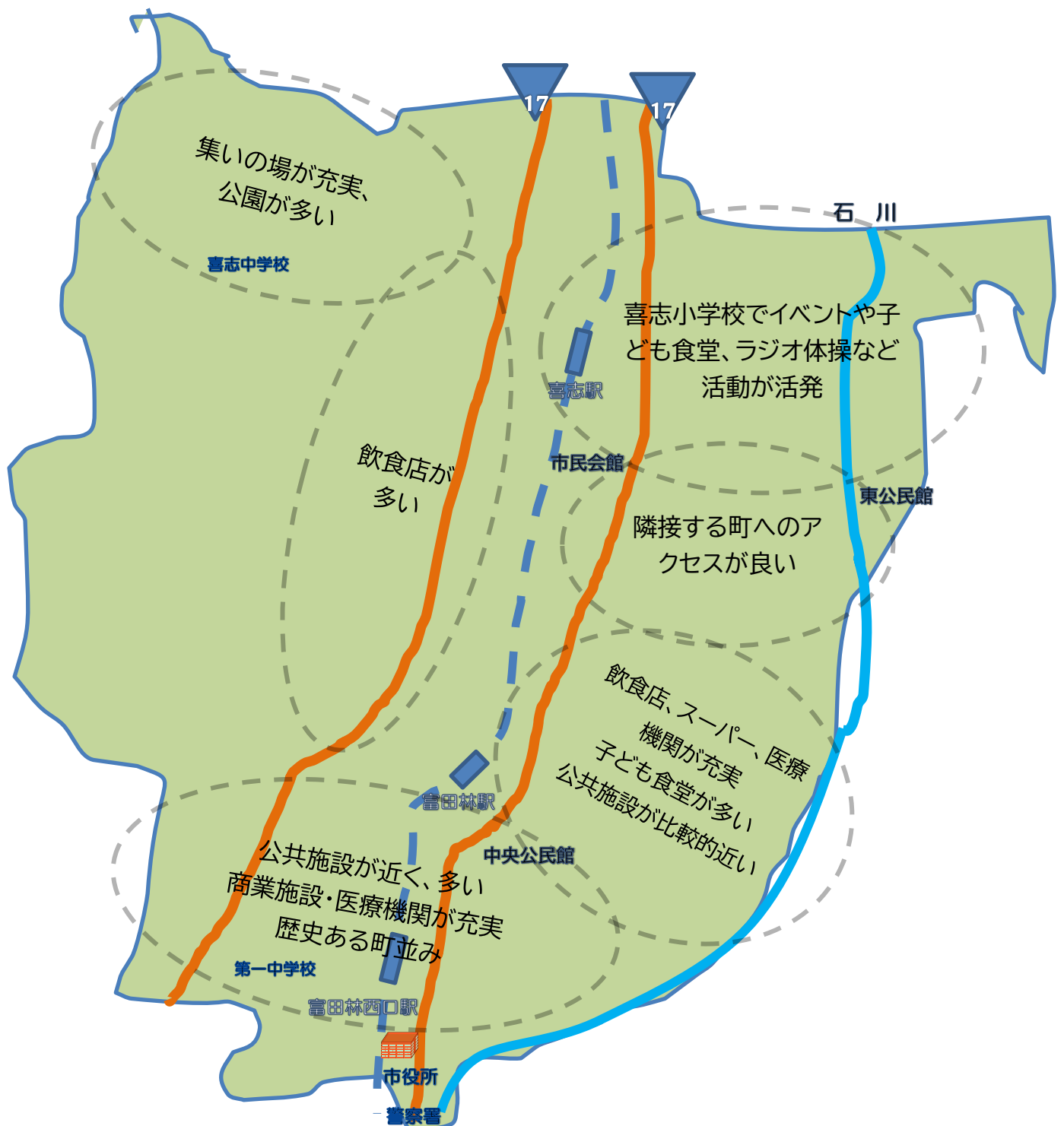
	人口(人)	高齢者人口(人)	高齢化率(%)		人口(人)	高齢者人口(人)	高齢化率(%)
喜志中学校区	18,494	5,592	30.2	第一中学校区	13,406	4,013	29.9
喜志西小学校	5,042	1,800	35.7	新堂	10,048	3,231	32.2
平町一、二丁目	582	162	27.8	清水町	1913	787	41.1
宮町三丁目	395	175	44.3	若松町	3899	1224	31.4
大字喜志	149	21	14.1	若松町東	230	41	17.8
梅の里一、四丁目	1,558	519	33.3	若松町西	1276	339	26.6
梅の里二丁目	873	373	42.7	緑ヶ丘町	476	187	39.3
梅の里三丁目	1,485	550	37.0	中野町	1,765	471	26.7
喜志小学校	8,364	2,213	26.5	中野町東	16	6	37.5
喜志町	3,123	668	21.4	中野町西	36	16	44.4
喜志新家町	365	140	38.4	大字新堂・大字中野	437	160	36.6
木戸山町	668	164	24.6	富田林	8,446	2,361	28.0
宮町一、二丁目	494	210	42.5	富田林町	1,080	368	34.1
旭ヶ丘町	428	117	27.3	本町	702	227	32.3
南旭ヶ丘町	304	1012	30.0	常盤町	518	148	28.6
桜井町	1418	340	24.0	寿町	3,533	837	23.7
川面町	812	210	25.9	昭和町	934	244	26.1
通法寺町、西条町	44	19	43.2	富美ヶ丘町	653	259	39.7
				谷川町	275	69	25.1
				甲田1丁目	751	219	29.2
				第1圏域	31,900	9,605	30.1
				市全体	106,580	33,813	31.7

第1圏域 課題、よく聞く困りごと



今後できそうなことマッチングできそうな人・団体		
芸大など学生による有償ボランティア	地域ごとでの助け合い	駅
あるこっと×拠点づくり	あすマイル×あるこっと	企業自動販売機×あるこっと
QRコード×あるこっと	I♡新堂校区×あるこっと	健診ポイント×???
高架下×コミュニティ(スケーパー)	富田林病院・PL病院×レインボーバス	あるこうかい富田林×社会参加
レインボーホール×神社	芸大生×企画×自治会(まちづくり)	子ども食堂とボランティア(高齢者の活躍の場)

魅力、良いところ



【地域の分析及び課題と考えること】

第1圏域のワークショップで出た意見は、主に移動と地域とのつながりに関する内容が多かった。第1圏域には17の地区があり、旧市街と昭和から平成に開発された新興住宅地が入り混じる地域である。近鉄長野線富田林駅～富田林西口駅周辺の旧市街は、官公庁やスーパーが近くにあり、平坦な土地が多いため、アクセス性が高いという意見が多く見られた。一方で外環状線(170号線)より西側の地区は、山を造成して建設されたことから坂道が多く、駅からも遠い(例:梅の里、南旭ヶ丘、富美ヶ丘周辺)。これらの地域は、高度経済成長期に宅地開発され50年近くが経過した結果、高齢化が進んでいる。特に車の免許を返納すると、買い物や通院といった日常生活での移動が困難になる住民が多い状況にある。

地域社会とのつながりに目を向けると、旧市街地では古くから存在するコミュニティに新規の住民は加わりにくいという意見や集会所など住民が集まる場所が不足している(例:寿町、平町、常盤町、若松町西)という意見もあった。高齢者の社会参加は、孤立を防ぎ、生きがいや健康づくりのために欠かせない要素である。住み慣れた地域で安心して生活をするためには、地域住民誰もが気軽に参加できる身近なコミュニティが必要であり、特に、新規住民も参加しやすい場の提供やコミュニティを支える担い手の育成・確保など、地域全体で支え合う体制づくりが求められている。

【課題に対しての提案】

課題	資源	提案
集いの場など活動拠点がない 既存のコミュニティに入りにくい	福祉委員会活動 シニアクラブ MINAYORU 商業施設(スーパー等) 笑顔はつらつ教室 各種出前講座(ぼっちら教室など)	拠点づくりのための取り組み

【分析】

住民の集まれる場が不足していることや参加が限定的であるという課題を受け、まずは、実際にその地区で住んでいる住民の声を聴く必要がある。そのうえで、住民の意向を聞き取りながら、MINAYORUなど地域の空き教室を活用するなどして、住民同士が「顔見知りになる」、「楽しさや元気になれる」と感じられる活動を実施する。出前講座や笑顔はつらつ教室をはじめとする介護予防教室(無料)などのサービスを活用して、活動を継続することで、住民主体の活動の場が増え、孤立予防や見守りの環境づくりにつながる事が期待される。

課題	資源	提案
集いの場など活動拠点がない	子ども食堂	子ども食堂ボランティアに参加し、多世代の交流が増える。

【分析】

子ども食堂は現在、第1圏域に9カ所開催され、3圏域の中でも一番設置数が多い。子ども食堂は「子どもや保護者の安心や安全の場であること」や「高齢者や障がい者の地域の交流の場」でもある。調理や昔遊びの伝承など、ボランティア活動を通じて地域との交流を深め、仲間とともに食堂の運営継続の役割を担う。